

### 第三章 職業適性検査からみた総訓生の素質について

職業適性検査は個人の、職業を遂行するうえに必要な精神的、身体的資格要件を発見するために用いる科学的な道具である。この道具はある職種に適しているか否かをみるための特定の諸能力を測定し、職業遂行の成否の可能性を予測し、個人を援助するために作成されたものである。

ゆえに、検査結果だけで直ちに、その個人の職業適性を決定するのは誤りである。あくまでも可能性を予測する一つの道具であつて、これによつて最適な職業を決定することはできない。

「検査利用の限界点は、性能的にみて、検査基準に合格する職種分野において職業生活をつづけ、職業人として育成したほうが、他の職種よりも抵抗が少なく、適応の可能性が大きいと判断する程度に考えるべきであろう。」※

さらに、職業適性検査の結果は訓練成績や就職後の実務成績との相関を十分に検証しなければ、習得の可能性を予測することはできないのである。※

この報告では、以上のような意味をふまえて、職業適性検査からみて、総訓生の素質がどのような傾向を示しているか、その一般的な傾向を、43年と44年度との比較において、考察しようとするものである。※

#### 第1節 職業適性性能の総括的な傾向

##### 1-a 職業適性性能点の中卒訓練生と高卒訓練生との比較

総訓生の適性性能の平均的傾向を最終学歴別に集計したのが第12表である。

この検査は標準母集団において、中央値が100になるように構成されているが、中卒訓練生についてみれば、S性能（空間判断力）、A性能（目と手の共応）の二つの性能をのぞいては、すべて中央値以下であり、中卒訓練生の職業適性性能の標準母集団の平均はいく分低いといえる。

---

※ 窪木安久：職業適性検査の運用と解釈（雇用問題研究会）

※ 訓大調査研究部では45年度に、素質と学力と職場適応との関係をコンピュータ情報システムとして把握しようと計画している。

※ 総訓生個々人の適性にもとづく指導の具体的事例は、44年調査第2部で報告する。

それにくらべて、高卒訓練生の職業適性性能の平均はF性能（指先の器用さ）をのぞいて、すべて110以上であるから、標準以上である。この傾向は43年調査とほぼ同様である。

#### 1-b 訓練校別の傾向

総訓生全員の訓練校別の適性性能の平均値を示したのが第13表である。

訓練校全体の平均より、すべての適性性能ですぐれている訓練校は「06」、「10」、「11」であつた。逆に、すべての適性性能で全体平均以下の値を示す訓練校は「03」、「07」、「09」、「12」である。※

このように、総訓生全員を総括的にみた場合、訓練校ごとの適性性能平均値に若干の差異がある。

#### 1-c 職種別の傾向

職種別の適性性能平均値は第14表のごとくである。

これによると、全体平均値よりもすべての性能で高い値を示す職種は「電子」「電気」「精密機械」「自動車整備」「製図」「織機調整」「第2自動車整備」「建築」「電工」である。反対にすべての性能で平均値以下の職種は「鋳物」「木工」「塗装」「ブロック」「銅器」「フライス」「製罐」などである。この職種ごとの傾向は知能偏差値の高低と訓練職種の関連傾向と類似しているが、職業適性性能がよい職種として「電気」「電工」「建築」が含まれているなど若干の相異がみとめられる。

#### 1-d 適性性能得点の分布傾向

職業適性性能得点の度数分布を示したのが、第15表である。

労働省のしめす基準からみて、現在の職業訓練職種に関係が深いと思われる性能はG性能（一般知能）、N性能（算数能力）、S性能（空間判断）、P性能（形態知覚）、M性能（手腕の器用さ）であろう。

この5性能について、総訓生の実態をみたのが第5図である。

G、N性能など知能に関する性能よりも、空間判断、形態知覚の性能が若干すぐれているといえるであろう。※

---

※ 訓練校のおかれている社会的、ならび教育的立地条件を明確にする必要がある。

※ この傾向が総訓生に独特のものであるのか、それとも適性検査の基準が変化しているのかを検討する必要がある。

また、G性能とF、M性能の関係をみたのが第16表である。

一般知能性能が低くて、手腕・手指の器用さ性能が高い中卒訓練生は1440名のうち、21名で、1.5%である。

また逆に、一般知能性能が高くて、手腕、手指の器用さ性能が低い総訓生は、中卒訓練生中で19名で1.3%、高卒訓練中で13名で4.7%である。

つまり、職業適性検査でみるかぎり、<sup>※</sup>極度に知能が低い者で手腕、手指の器用さに特にすぐれている総訓生はきわめてわずかである。また、知能がかなり高い者で、極度に手腕、手指の器用さを欠く総訓生もわずかである。

## 第2節 職業適性性能別職種群からみた傾向

この適性検査は20の職務群(occupational aptitude pattern)を判定するように構成されており、その職務群の職種を遂行するための重要性能には最低得点(critical Minimum Score)が算出されている。<sup>※</sup>

ここでは、仮にこの基準をかりて、訓練職種ごとに総訓生の適性からみた素質傾向を分析してみる。

### 第2節 職業適性性能別職種群からみた傾向

訓練職種ごとの最低得点(CMS)の通過の割合は第17表のごとくである。

この図のように、約50%の総訓生はCMSを通過していないことになる。つまり、適性性能に応じて職種が決定されていないことを物語っている。

この事実を43年度と比較すると、「機械」で43年62.6%通過が44年に47.3%通過に減り、また「板金」43年75.0%通過が44年58.4%とCMSを通過する総訓生の率は大きく減少している

2-b 訓練校別の「機械」CMS通過率は、総訓全体で47.3%であることは前述した。これを訓練校ごとに比較集計したのが第 表である、最もCMS通過率の高い訓練校は、総訓「01」、総訓「11」で67%、反対に低い訓練校は総訓「12」の29%、総訓「13」の25%である。

---

※ 一般に「頭の悪い者は腕で職業を選べ」などといわれているが、職業適性検査でみるかぎり、かならずしもそう断言はできない。

※ 現在の仕事内容との吟味から、最低得点の再検討が必要であろう。

このように、同一職種内でも訓練校によつて、職業適性性能がそろっている総訓生が多い訓練校と、適性性能が一致しない総訓生が多く入っている訓練校があるといえよう※

第12表 学歴別職業適性性能得点

		区分	性能	G	V	N	Q	S	P	A	T	F	M
平均	01	中卒		92	81	89	95	106	98	103	98	90	94
	02	高卒		122	112	113	115	117	112	118	116	98	110
SD	1	中卒		20.0	18.9	22.7	21.3	19.6	21.0	26.3	25.3	22.1	23.9
	2	高卒		20.5	19.8	21.2	20.8	19.1	19.5	27.6	25.5	22.6	27.0

N=1701

43年度

AV	1	中卒	93	83	90	96	105	97	104	92	84	86
	2	高卒	126	114	115	113	120	112	119	107	99	102

N= 877

※訓練校によつてCMSが大きくなるのは入校時の選考方法に起因するのか、その他の原因なのか今後調査をすることが必要である。

第13表 総訓生全体の訓練校別職業適性性能点

訓練校		性能									
		㊦	V	㊨	Q	㊩	㊰	A	T	F	㊱
01		97	85	94	95	107	98	109	100	90	88
02		98	86	95	96	106	98	109	103	94	107
03	※	88	77	86	91	107	97	111	102	91	84
04		93	83	88	96	106	94	120	109	83	95
05		101	89	100	102	106	108	106	94	81	88
06	○	112	101	103	110	116	111	110	109	90	100
07	※	87	78	88	86	100	89	93	89	75	82
08		90	79	93	89	105	99	99	93	95	106
09	※	86	75	88	90	103	98	94	90	81	86
10	○	108	97	99	105	113	107	106	106	97	113
11	○	105	92	98	108	118	110	116	120	101	121
12	※	83	75	80	99	97	88	94	80	91	92
13		98	88	98	95	107	92	102	107	79	84
14		98	91	93	96	104	102	105	103	102	85
15		94	82	90	97	109	103	94	99	98	95
	全体	96	86	93	98	108	100	105	101	91	97

43年度

	全体	99	89	95	99	108	100	107	95	87	88
--	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

第14表 給訓生全体の職種別職業適性性能点

性能 職種名	Ⓔ	V	Ⓖ	Q	Ⓔ	Ⓔ	A	T	Ⓔ	M
01 ○	110	96	105	106	115	107	106	107	93	96
02 ○	99	87	98	99	109	102	110	104	95	100
03	95	84	95	96	106	100	102	97	92	95
04	85	75	84	88	103	93	97	92	86	90
05 ○	99	86	96	105	113	109	110	110	93	104
06 ○	111	110	104	106	112	106	112	108	93	102
07	88	79	85	91	104	99	101	99	90	93
08	91	81	86	96	106	96	99	94	89	95
09 ※	72	64	70	81	96	87	100	93	83	83
10	102	93	87	105	111	106	115	113	87	117
11 ※	89	78	83	93	105	97	107	104	92	93
12 ※	85	77	76	94	104	96	95	91	84	93
13 ※	71	65	71	81	87	71	80	76	82	63
14 ○	124	114	122	115	112	112	118	110	92	113
15 ○	109	98	105	111	111	96	123	126	80	112
16 ※	82	76	79	86	98	85	116	98	84	97
17 ※	68	49	69	77	99	69	60	64	66	50
18 ※	78	67	78	87	102	98	88	86	82	83
19 ○	114	99	109	110	120	115	112	107	102	110
20 ○	104	90	94	101	113	101	150	132	97	116
21 ○	105	86	100	110	119	114	126	121	92	120

第15表 職業適性性能点の度数分布表

性能 区分	Ⓔ	V	Ⓖ	Q	Ⓔ	Ⓔ	A	T	F	Ⓔ
0-9	1	1	0	5	1	2	5	2	1	3
10-19	0	1	1	2	0	0	1	3	1	2
20-29	2	4	13	4	2	3	4	6	1	4
30-39	16	23	26	5	0	8	6	8	10	9
40-49	26	58	47	12	6	14	16	12	37	30
50-59	41	105	62	25	13	25	31	35	76	42
60-69	88	144	111	83	24	63	70	89	146	106
70-79	175	309	173	173	55	135	117	149	209	193
80-89	268	279	242	285	190	213	179	229	284	249
90-99	320	312	303	252	270	304	243	284	290	283
100-109	304	206	302	305	329	358	264	267	266	217
110-119	172	122	190	254	313	267	274	234	164	223
120-129	143	68	126	174	264	159	187	162	106	140
130-139	83	44	67	60	145	90	138	89	38	74
140-149	38	14	25	32	65	41	83	65	16	37
150-159	11	5	6	17	12	6	37	24	7	18
160-169	4	0	1	2	5	7	15	16	4	12
170-179	3	0	0	5	1	0	11	11	0	9
180-189	0	0	0	0	0	0	3	5	0	2
190-199	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0
200	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

第 18 表 職業適性基準通過率（訓練校比較）

(a) 機械科

総訓名	合格率	合格者数
01	67.6	23
02	56.0	14
03	50.0	9
04	33.3	6
05	52.9	9
06	58.3	7
07	42.8	6
08	58.3	14
09	43.4	10
10	33.3	2
11	66.6	14
12	28.5	8
13	25.0	5
14	41.1	7
15	34.7	8

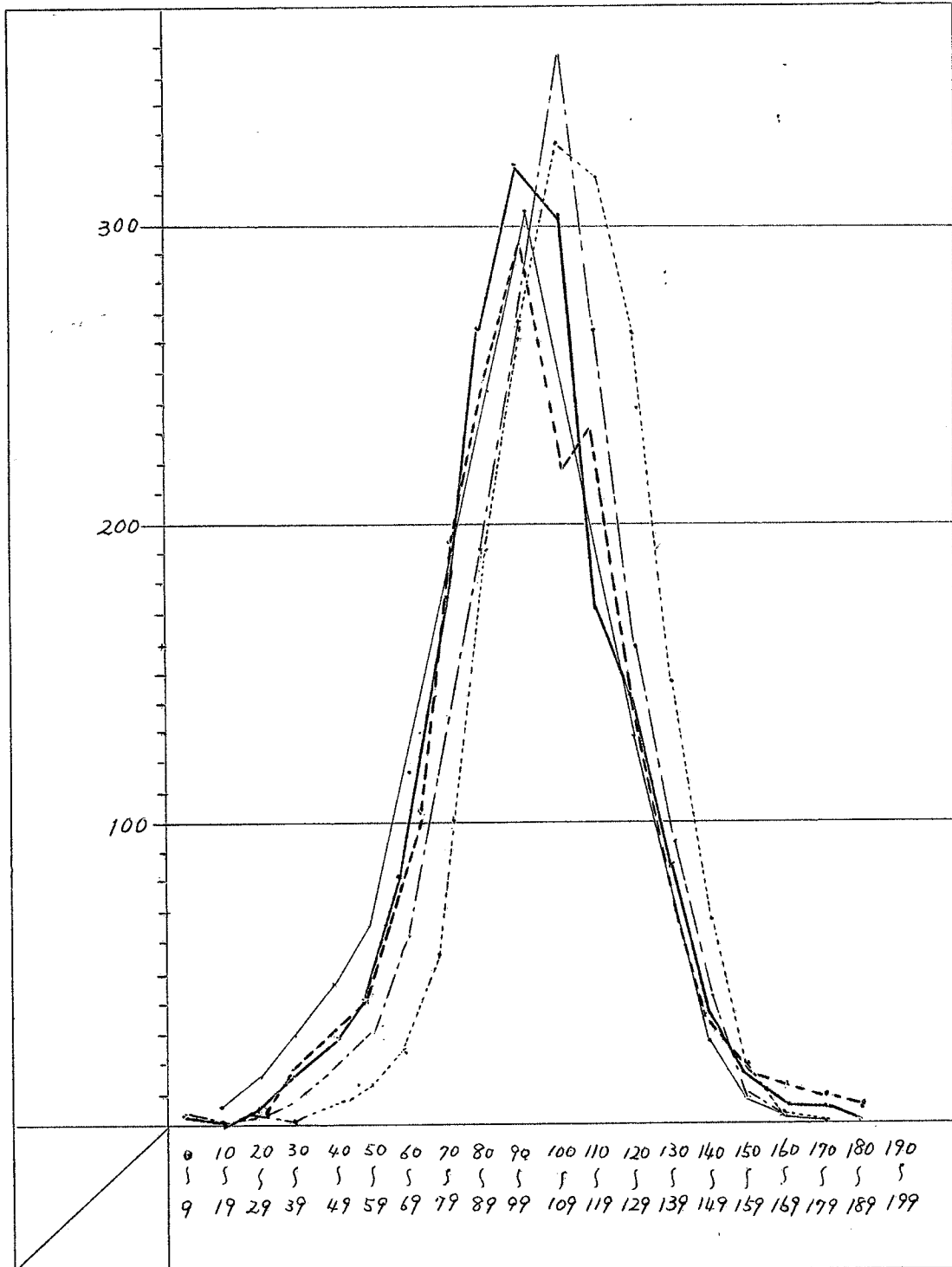
(b) 溶接科

総訓名	合格率	合格者数
01	57.1	12
03	45.4	5
06	57.1	6
07	83.3	10
09	57.8	11
10	50.0	6
11	71.4	
12	36.8	7
14	86.6	13

(c) 木工科

総訓名	合格率	合格者数
01	92.3	24
02	50.0	10
03	69.2	9
06	62.5	5
11	81.2	13
12	23.5	4
13	44.4	9
14	26.3	5
15	26.6	4

第5図 職業訓練における主要適性性能点の分布図



—— 一般知能  
 - - - 算数能力  
 - · - 定問判断力  
 ····· 基礎感知覚



第 1 6 表 知能と手腕の器用さとの関連

知能 \ 器用さ		人 数		%	
		中	高	中	高
G80 以下	F.M 以上 110.110	21	0	1.5	
G80 以下	F.M 以上 120.120	3	0	0.2	
G120 以上	F.M 以下 90.90	19	13	1.3	4.7
G120 以上	F.M 以下 80.80	9	7	0.6	2.6

G—一般知能。 F, M—手指・手腕の器用さ

第 1 7 表、職業適性職種別基準通過率

職 種	基準通過率	
	4 4 年	4 3 年
機 械	4 7 . 3	6 2 . 6
板 金	5 8 . 4	7 5 . 0
溶 接	6 1 . 6	6 4 . 6
木 工	5 4 . 5	7 7 , 6
塗 装	6 1 . 7	4 1 . 4
鋳 物	5 8 . 9	